

のぞみ No. 44

独立行政法人 大分医療センター 診療連携情報誌
国立病院機構

2016年 11月 第44号

「おおいた 光のファンタジー2016 ～星空のシンフォニー～」

今年は高さ30メートルの“光のツリー”が
大分駅を輝かせます。



大分駅（大分市）

基本理念

最新の医療技術・知識の修得に励み、病める人の立場に立ち、
人の尊厳・権利を尊重し「愛の心・手」で
最良の医療サービスを提供します。

OITA MEDICAL CENTER

消化器内科紹介



消化器内科 部長
新関 修

大分医療センター消化器内科では室院長を含めスタッフ6名で消化管疾患、肝胆膵疾患を幅広く診療しています。

最近の消化器内科領域でのトピックスと、当院での取り組みを紹介したいと思います。

肝疾患

当科は以前から肝疾患の患者さんが多い病院として知られており、ウイルス性肝炎・肝硬変や自己免疫性肝疾患、脂肪肝（NASH）の治療や肝臓に対する内科的治療を行っています。

ウイルス肝炎治療、なかでもC型肝炎の治療はDAA（直接作用型抗ウイルス）製剤の登場により劇的に変わりました。当科ではこれまで800例以上のインターフェロン（IFN）治療を実施し、多数の患者さんのC型肝炎を治療してきました。IFN治療も改良が重ねられ多くの方が治癒しましたが、それでも治療成績はまだ満足できるものではなく、治療成績や副作用の点で治療を迷っていた患者さんも多かったのが実情でした。DAA製剤の登場によりこれまで治療が困難だった血小板が少ない方やIFN治療で副作用が強かった方、高齢の方にもウイルス排除が可能となりました。肝臓の状態の把握、薬剤耐性（薬が効きにくい）ウイルスの確認、DAA製剤と併用してはいけない薬剤が投与されていないかの確認、持病（心臓病や腎臓病の有無）のチェック、医療費助成の申請など、治療開始前に確認しておく必要がありますので、まずは外来でご相談いただければと思います。2014年以降当科では130名以上の患者さんが治療を受けています。

またB型肝炎も核酸アナログ製剤の登場により多くの症例で病状のコントロールが可能となりました。

C型肝炎は治癒する時代となり、B型肝炎も拡

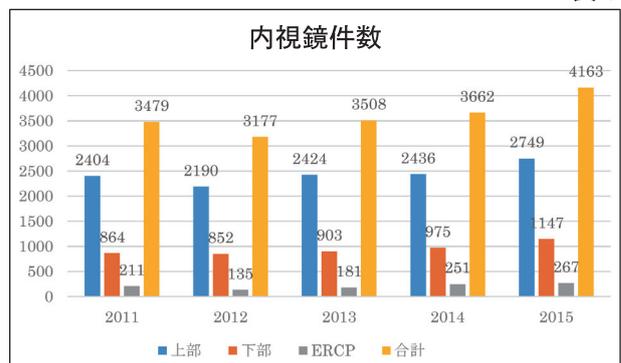
散アナログ製剤により病状のコントロールが可能となりますが、肝臓のリスク群であることに変わりはなく、病診連携しながら肝臓のスクリーニングを継続していく必要があります。

肝臓癌治療に関してはラジオ波焼灼療法（RFA）、手術、血管造影、化学療法などの治療方法があります。当科では以前よりRFAを行っており、毎年50例以上の治療を行っています。肝臓、癌の状態に応じて上記の治療方法を選択しており、治療方針の決定に当たっては外科、放射線科とも十分検討したうえで適切な治療方法を選択しています。

消化管疾患

内視鏡検査を毎日行っており、最近の上部、下部消化管、ERCPの検査数は表1のごとくです。

表1



消化管疾患に関しては食道・胃・大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っています。ESDには出血や穿孔などの偶発症に注意が必要で、十分な経験を積んだ医師が処置を行う必要がありますが、当院では2002年と県内ではかなり早い時期にESDを導入し、これまでも多くの症例を治療してきました。最近のESD症例数を提示します（表2）。大腸腫瘍に対する

ESD が保険収載されたこともあり、大腸の ESD 症例が増加しています。(図 1)。ESD 症例の 7 割は紹介患者さんで、以前から病診連携を積極的に行っているおかげと考えています。

表 2

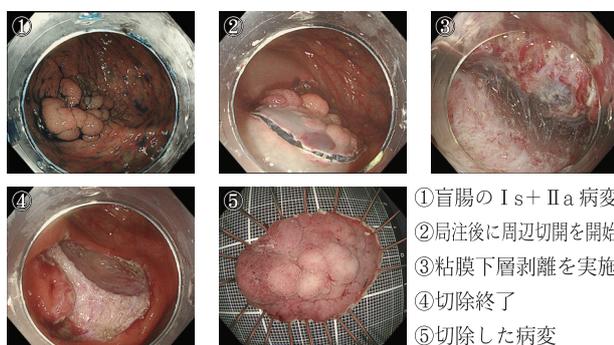
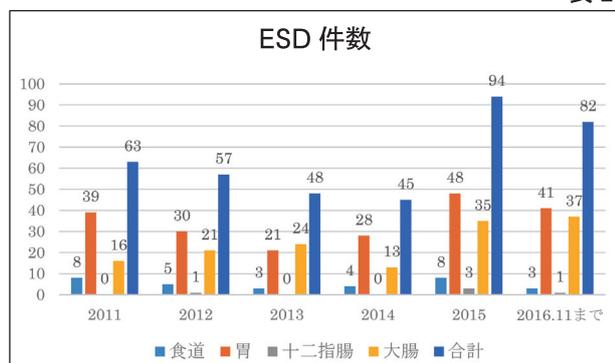


図 1 大腸 ESD の実際 (盲腸の LST-G: 40mm の病変)

大きな病変や線維化がある症例など、従来の治療方法では切除が困難だった症例も内視鏡治療により治すことができるようになり、手術と比べても体への負担が少なく非常に有用です。リンパ節転移のない病変が ESD の適応であり、治療の前には通常の内視鏡検査に加えて拡大内視鏡検査や超音波内視鏡検査などの精密検査を行い、内視鏡治療の対象としてよいかを詳しく検討します。リンパ節転移の可能性のある病変に対しては外科ともよく相談して腹腔鏡手術を選択するケースもあります。

また外科と連携して、胃 GIST の手術に ESD を応用した腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS) を導入しました。

消化管出血に対する緊急内視鏡も多数行っています。胃・十二指腸潰瘍出血は減少している印象ですが、高齢化に伴い大腸憩室出血が増加しています。

胆膵疾患

胆膵疾患が多いのも当科の特色で、肝機能異常や黄疸を指摘され当科にご紹介いただき精査する

と膵臓や胆管の異常を指摘されることが良くあります。この領域では急性胆管炎や膵炎などの急性疾患に対する治療と、胆膵領域の悪性疾患に対する診断治療が大きな柱となります。

当科では以前より超音波内視鏡 (EUS) と逆行性膵胆管造影検査 (ERCP)、細胞診を組み合わせることで小さな膵癌が発見可能となることを報告してきました。慢性膵炎や IPMN などの膵癌のリスク群や、主膵管拡張を指摘された症例にも積極的に EUS を行い、難治癌の代表とされる膵癌の早期診断に取り組んでいます。また閉塞性黄疸に対しても極力 ERCP を行う前に EUS を行い腫瘍の存在診断、範囲診断などを行うようにしています。

また膵腫瘍や胃粘膜下腫瘍などの精査としてコンベックス型 EUS による EUS-FNA も行っており (図 2)、年々増加傾向です。

総胆管結石や急性胆管炎に対する内視鏡治療、閉塞性黄疸に対するドレナージ、非切除例に対する金属ステント留置なども多数例を行っていますが、近年は高齢者に処置を行う機会が増加しています。

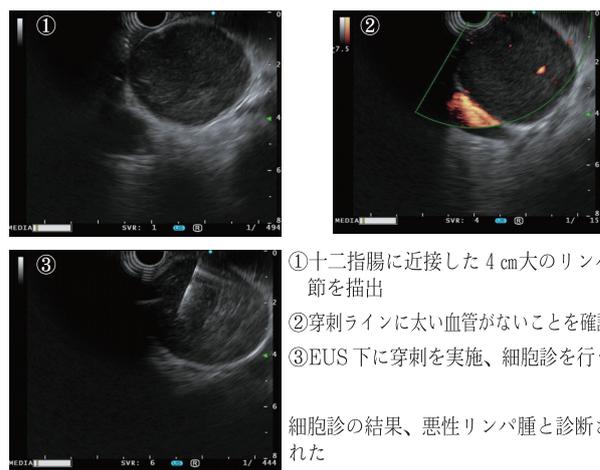


図 2 EUS-FNA の実際

最後に

消化器内科では消化管・肝胆膵領域の急性疾患、慢性疾患から悪性腫瘍まで幅広く診療を行っています。緊急に対応が必要な症例も極力対応していきます、病診連携も積極的に行っていきますので、気軽にご相談ください。今後ともよろしく願いたします。



社会医療法人 長門莫記念会 長門記念病院

連携医療機関のご紹介



理事長 ながと ひとし 長門 仁 先生

所在地 〒876-0835 大分県佐伯市鶴岡町1丁目11番59号

TEL・FAX TEL 0972-24-3000 (病院代表)・FAX 0972-23-6640

ホームページ <http://www.nagato.or.jp/>

診療科目 呼吸器内科、神経内科、消化器内科、循環器内科、内科、整形外科、外科、泌尿器科、脳神経外科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、精神科

病床数 250床

診療所 長門在宅リハビリテーションクリニック、直川クリニック、西野浦診療所・名護屋出張診療所（へき地診療所）、因尾診療所

介護老人福祉施設 鶴望野、和の風

その他関連事業所 訪問看護ステーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、居宅事業所、ヘルパーステーション



佐伯市の長門莫記念会理事長を務めております、長門仁です。今年の8月に長門記念病院の新棟が竣工し診療を開始したことから、昨年に引き続き投稿する機会をいただきました。このような機会をいただき、室院長をはじめ関係する皆様方にお礼申し上げます。

今回は新棟を紹介していただけるとのことで、建築に至った経緯を紹介させていただきます。

まず当院の歴史についてですが、明治41年に米水津村で上尾医院としてスタートしております。その後は戦争の影響などで一時休止しておりましたが、昭和22年より佐伯市内で診療を再開し、昭和34年には上尾病院となり、昭和42年には現在地に新築移転しております。その後数回の増改築を行うとともに、昭和55年には長門記念病院と改称し、昭和63年には病床数250床となっております。現在も病床数は250床で、7：1の急性期病棟120床、地域包括ケア病棟30床、回復期リハビリ病棟52床、医療型療養病棟48床からなるケアミックス病院となっています。また併設施設として定員100名の介護老人保健施設もございます。

これまでは急性期病棟や手術室、外来・検査部門など主要な診療部門は、1981年に完成した旧A館に集約されてきました。今年で35年が経過し、これまでに療養環境の改善、医療の高度化に対応すべく増改築を繰り返してきましたが、一部が耐震基準を満たしておらず、施設の老朽化もあり2011年3月の東日本大震災を機に新棟の建築を検討してまいりました。

最初は現在地での増改築なのか全面移転なのかを検討してまいりましたが、コストや土地の確保の問題から現在地での増改築を計画することとなりました。その頃は病院近隣には10軒以上の住宅と田んぼがあったことからまずは近隣住民へ説明会を行い、最終的に皆様のご理解を頂き土地を確保することができました。それと同時に基本設計にも取り掛かりましたが、最初の図面は6階建て屋上ヘリポート付きで全病棟250床を移転するもので、2万㎡を超える巨大なものでした。そこから予算の関係もあり、最終的には病棟は急性期の150床のみを移設としたA館の建て替え計画に落ち着きました。

今回建築にあたりましては自分の中ではいくつか決め

事をしていました。

まずは、基本的なことですが患者さんの療養環境を改善すること、そして病院らしさをできるだけ感じないように工夫をすることでした。また、ゆったりとした休憩室の確保などスタッフにとっても働きやすい職場環境を作ることでした。

ただ、今回の建築を通じていろいろと悩み苦しむ時もありました。その時に創始者の長門莫が残した昭和35年の就業規則前文に書かれていたこの一文が支えになりました。

『病院で一番大切なのは患者である。診療も、看護も、給食も、病室設備も患者を思う一念にかがる所があれば、医は仁術の道にはずれるのである』

大きな事故もなく今年の8月に無事竣工を迎えましたが、この教えに沿って私にとっては思い描くすばらしい病院ができました。新A館の完成により、療養環境は飛躍的に改善され、地域の方々にも喜んでいただけるものと確信しております。

計画からわずか5年でこれほどの建物ができるとは想像もしておりませんでした。これもひとえに創始者を始

めとする、これまで病院の発展のために力を注いできた先人たちの賜物だと感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは私たちが、開院当初の精神を引き継ぎ、建物に負けない立派なサービスを提供できるように努力していかなければなりません。

昭和35年の就業規則前文の最後にはこう書かれていました。

『最後に一言するが、私の病院は十等病院にもなれぬであろう。ただし「心は錦の書生さん」または「山椒は小粒でもピリッと辛い」の言葉を常に思い起こしつつ、従業員諸君と共に天下を闊歩し得る、正しく、明るく、強い、そして患者には絶対優しい病院として進んでいきたいのである。』

この創始者長門莫からのメッセージを心に刻み、「困っている人を助ける」を合言葉に、気持ちを新たに職員一同、地域に貢献できるよう、なお一層の努力を重ねていく所存です。

今後とも大分医療センターとは密に連携をとりながら、県南地域の医療、介護、福祉に貢献してまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。



◀ 病院外観



▲ 受付



▲ 病室



▲ 病棟

新任 医師 紹介

医長

豊田 亮

診療科 消化器内科
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会消化器病専門医



10月より消化器内科に赴任してきました豊田 亮と申します。
内視鏡検査についてなど気軽にご相談下さい。
地域住民の皆様のお役に立てるように頑張りますので、よろしくお願いたします。

がん相談支援センター

当院では、がん相談支援センターを開設しています。がん相談支援センターでは、がん専門相談としての研修を受けたスタッフ（看護師、医療ソーシャルワーカー）が、信頼出来る情報に基づいてがん治療の療養生活全般の質問や相談をお受けしております。

がんに対する不明な点、ご不安な点がございましたらお気軽にご相談ください。

相談員

- ・がん相談支援センター専従看護師 1名
- ・医療ソーシャルワーカー 1名

場所

総合受付の左側にあります地域医療連携室

方法

対面相談又は、電話相談
相談は無料で、秘密は厳守いたします

受付時間

9：00～17：00（土・日・祝日は除く）
電話番号：097-593-1111

相談内容

- ・がんの病態、標準的治療法、などがん診療及びがんの予防・早期発見などに関する一般的な情報の提供
- ・セカンドオピニオンについて
- ・がん患者の療養上の相談
- ・がん患者支援団体の情報の提供

がん相談員



地域医療連携室からのお知らせ

当院の地域医療連携室は、
こんなことに取り組んでいます。

紹介患者の受診、入院相談窓口や後方支援病院との連携、患者紹介など退院後安心して生活出来るように地域で支え合う取り組みを行っています。

スタッフ

地域医療連携室長（副院長）	…………	穴井 秀明
地域医療連携係長（経営企画室長）	…………	田辺 俊介
医療社会事業専門職	…………	岡江 晃児
医療社会事業専門員	…………	灰崎香菜恵
医療社会事業専門員	…………	椎原 優子
医療社会事業専門員	…………	大庭江梨奈
地域医療連携看護師	…………	後藤 純子
地域医療連携看護師	…………	石川奈保美
事務助手	…………	三代 哲生
事務助手	…………	安東 雅美

【問い合わせ窓口】 大分医療センター 地域医療連携室

内線 712

TEL

097-593-1111

FAX

097-528-9651



「生活習慣病」について講演しました

代謝内科吉道剛（よしみち ごう）部長が、11月1日大在地域包括支援センター主催の介護予防教室で、「生活習慣病の予防教室～健康な身体でいるために～」について大在地域住民に向けた講演を行いました。



開催場所である大在北公民館には、約 45 名の住民の方々がつめかけ、吉道医師が健康寿命や肥満、糖尿病などについて約 40 分間の講演を行いました。

講演後は住民の方々より数々の質問がありアットホームな雰囲気の中ディスカッションを行う事が出来ました。



外来診察医担当表

■ 受付時間 8:30~11:00

■ 診察開始時間 8:30~

平成28年10月17日現在

診療科	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
代謝・内分泌内科		光富 公彦	吉道 剛	吉道 剛	吉道 剛	吉道 剛
				光富 公彦	光富 公彦	光富 公彦
腎臓内科				青木 宏平		
		[受付時間 8:30~11:00 診療時間 8:30~12:00]				
膠原病内科				前島 圭佑		
		[受付時間 8:30~11:00 診療時間 8:30~12:00]				
消化器内科 (肝センター)		山下 勉	室 豊吉	山下 勉	新関 修	室 豊吉
		豊田 亮	新関 修	得丸 智子	山下 勉	豊田 亮
		大塚雄一郎	山下 勉		得丸 智子	大塚雄一郎
工 科		得丸 智子	大塚雄一郎	豊田 亮	有川 淳子	遠藤 美月
		有川 雅也	有川 雅也	大家 辰彦	大家 辰彦	大家 辰彦
循環器内科		久米 治	久米 治	脇坂 収	脇坂 収	有川 雅也
		一宮 朋来	一宮 朋来	一宮 朋来	中野 哲治	一宮 朋来
呼吸器内科 (呼吸器センター)		中野 哲治	横山 敦	中野 哲治	横山 敦	横山 敦
		穴井 秀明	穴井 秀明	田原光一郎	梅田 健二	田原光一郎
外 科		河野 浩幸	的野 る美	梅田 健二 8:30~10:30 河野 浩幸 10:30~12:00	倉光正太郎	相場 崇行
		(手術日)	高祖 英典	高祖 英典	(手術日)	高祖 英典
整形外科		細山 嗣晃	細山 嗣晃	(手術日)	細山 嗣晃	河野 正典
		丸井 研吾	丸井 研吾		丸井 研吾	丸井 研吾
泌尿器科	午前	甲斐 博宜(新患)	三木 大輔(新患)	甲斐 友喜(新患)	奈須 伸吉(新患)	甲斐 友喜(新患)
		奈須 伸吉(再来)	甲斐 友喜(新患)	三木 大輔(再来)	甲斐 博宜(新患)	奈須 伸吉(再来)
	午後(予約のみ)			午後(予約のみ)		
		各医師で分担		各医師で分担		
婦 人 科		岡田さおり	岡田さおり	岡田さおり	岡田さおり	岡田さおり
				西田 欣広		
	[受付時間 14:00~16:30 診療時間 14:00~17:00]					
放射線科		中村 雄介	井本 圭祐(午前)	中村 雄介	井本 圭祐	中村 雄介
			寺嶋広太郎(午後)			
内 視 鏡 (胃腸センター)		田原光一郎	豊田 亮	新関 修	豊田 亮	新関 修
		新関 修	得丸 智子	大塚雄一郎	大塚雄一郎	山下 勉
						得丸 智子
内科系疾患で専門診療科の判断が困難な場合の担当科		消化器内科	代謝・内分泌内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科

【特殊外来のご案内】 ※完全予約制となっておりますので、下記にご連絡ください。

■ ひまん外来 毎週金曜日 (祝日を除く) 診察時間 14:00~16:00
TEL 097-593-1111 (内線235) 予約受付時間 月~金曜日 13:00~15:00

■ ストーマ外来 毎週金曜日 (祝日を除く) 診察時間 9:00~12:00
TEL 097-593-1111 (内線497) 予約受付時間 月~金曜日 8:30~17:00

■ 緩和ケア外来 毎週月曜日 (祝日を除く) 診察時間 10:00~12:00
毎週水曜日 (祝日を除く) 診察時間 10:00~12:00
TEL 097-593-1111 (内線712) 予約受付時間 月~金曜日 8:30~17:00



地域医療支援病院
日本医療機能評価機構 認定病院
独立行政法人 国立病院機構

大分医療センター

のぞみ 第44号 2016年12月1日発行

〒870-0263 大分市横田2丁目11番45号
TEL097-593-1111・FAX097-593-3106
地域医療連携室直通 FAX097-528-9651

独立行政法人 国立病院機構
発行 大分医療センター 地域医療連携室
印刷 陽文社印刷株式会社